

時局下の家庭園を見て

東京女子高等師範學校教諭

大 岩 金

時局下空地利用、食糧増産の聲が日増に高くなるにつれて、昨今はさこまでもよく是が實現されて、蔬菜園の非常に多くなつた事が一際目立つやうになつた。

是は單に土地の利用さか、食糧の増産のみの利に止まらず、老若、男女を問はず、朝夕に寸暇を見付けては、鎌、コテを手にして土に親しむ、そして自ら種子を下し、毎日育つて行く有様を眺め、時に蟲に、雨に、風に障得を受ける状態を見ては、一株の蔬菜も雖も容易ならぬ事を體驗し、こゝに今まで以上の生産者への感謝の念も一層深くなる事と思ふ。又自らの身心の健康にもよい事は申す迄もない。尙、草花々々してゐた荒涼地にかくて整然と耕され是にすくすく育つ蔬菜、草花を見ては風致上からいつてもなにご氣持のよい事であらう。

色々數へあげれば限りもない結構な事ばかりであるが、今更筆の廻らない私が喋々述べるにも及ばない事であるから、以下自分の見た範圍で比較的何處にも栽培されてゐるものに就て、當節しなければならぬ仕事を思ひついた

ままに記す事にする。

幸ひ幼稚園もお休みになつたこゝろで一緒に出て、世話をした戴きたいものである。

馬鈴薯

是は到る所に栽培されてゐる。八百屋では既に先月から相當大きなのが出てゐるが、我々素人作りのものでは丁度七月上中旬が收穫時である。即ち地上部が少し黄色になり、莖を引つばつて見るに抜ける。又株の周圍を少し掘つてみるに、彼處、此處に薯が出来てゐて、爪で皮を剥ぐとよくむける。この時こそ丁度掘り上げてよいのである。そして入用な丈つづ掘り取るには時を選ばないが、もし一度に收穫して貯藏しておくやうな場合には、掘り上げの當日は勿論數日晴天の續いた後即ち土の乾いた日がよい。土の濕つた時に收穫した薯は早く腐敗する事があるから注意すべきである。

掘り上げた薯は二三日、日蔭干にして乾かし後なるべく濕氣の來ない暗所にしまつておく方がよい。明るい所では

皮が青くなり、又芽を早く出すおそれがある。

次に地上部の莖葉の始末である。何處か空所を見付けて少し穴を掘り是に積み込み所々に藁があれば三つ切位にして入れ、尙下肥、米のきぎ汁、灰なごを入れて最上部は土で覆うておく。この節ならば四十日もすれば大方腐熟して秋播する九月上中旬頃には堆肥として使用することが出来る。この間に一二回切返しきいつて上下が逆になるやうにする。一層よい。こうした堆肥は新しく開墾した土地なごには是非入れてほしいものである。

次に馬鈴薯を收穫した後には何を栽培したらよいか。一寸考へる。この八百屋に出る大きな立派な白菜、キャベツ等色々のものが作つて見たい氣がする。しかしそれまでには相當の苦心がある。土もかなり肥えてゐなければならぬ。肥料も度々やり、蟲取りもたえずしなければならぬ。しかし是も今一息さいふ所、やがて厭はしくなくなり、面白い位になるからこゝしばらく栽培し易いものを立派に作りあげるとやうに勉め、追々に手のかゝるものに進んで行くやうにしやうと思ふ。

それで今回は馬鈴薯の後に最もらくなツルナ、今少し手のかゝる菠薐草この二種をえらび、是に就て少し述べる事にする。

ツルナに就ては前に書いた事があると思ふが今探して載

くより一寸改めて記した方が早い氣もするので極簡単に述べる事にする。

馬鈴薯の收穫が終り、後始末が出来たならば早速に耕やし、既に堆肥の用意があれば之を基肥として入れ、幅一米位の平床を作る。もし堆肥の準備がなければ基肥なしで差支へない。床が出来てから二條位浅い溝を作り、是に下肥を入れてその上に覆土しておいてもよい。尙是をも略して早速に種子を播き、後發芽してから條間に稀い下肥を追肥としてやつてもよい。

種子は株間三十糎位になるやうに、床に三條、一ヶ所に二三粒宛點播すればよいのである。覆土はいつもの通り種子の直徑の二三倍にするのであるが、點播の場合には豫め種子の三四倍の深さに穴をあけておき、その中に種子を落し入れて後、土を平にすればよい。

このやうにして播いたツルナは秋になるまで餘程寒い所でなければ、充分に食べられる程に成長し、段々茂り冬の大霜の下りる頃まで收穫が續けられる。

菠薐草

一、馬鈴薯の後作を菠薐草にする場合には、收穫後、坪當り百匁程(凡四百瓦)の石灰を地上に撒き(木灰でもよい)後、出来る丈深く(三十糎位)耕しておく。

二、耕して行く際に長さ二糎内外の赤褐色をした紡錘形

の蛹がある事がある。是は即ち夜盜蟲の蛹であるから、必ずつぶしておかなければならない。土中に取残されたものは又九、十月頃の蒔草發芽後大害を蒙らせることになる。

又根切蟲といつて頭部も、胴部も共に灰色をした、長さ一—三糎位の蟲、頭部、赤褐色、胴部白色、長さ一—二糎位の金龜蟲の幼蟲もかなり多くゐる所もある事と思ふ。是等は夜盜蟲以上の大害を及ぼすものであるから、見付け次第捕殺しておかなければならないのであるが、是等蟲に對しては子供は非常に興味を持ち一向に恐ろしがらないものである(事實何も捕殺するのを恐れる事はないが)から、この休暇にこそ子供同伴で蟲退治してほしいものである。

このやうにして、年内に收穫するには九、十月始め頃までに播種すべきである。播種に先立つ十日位前迄には堆肥があれば鋤き込んで、後六七十糎の平床を作り、播種を待つのである。地拵へは、にはか作りのものよりも早い方がよいのである。尙十月頃に收穫しやうとするには、七月の中に播種するのであるが、それには暑氣のため、發芽まで敷葉をするさか、灌水をするさか、或は地拵へが充分出來ない所へ播種するため、發育が思はしくないさかの故障が起り易いものであるから、まづ家庭園では無理のないやうに、九月早々までにゆる／＼地拵へをした方が、少しは土地も休ませられて好都合かと思ふ。それで蒔草の播種に

就ては次號に述べる事とする。

小蕪菁 夏大根

收穫までに短時日でよい爲か方々に作られてゐるのを見受ける。しかし大ていの所のが込み合ひ、蟲にも相當食はれてゐるやうである。見て穴のあいてゐるのは、夜盜蟲、青蟲、金龜蟲のやうな咀嚼口を持つた害蟲であるから、砒酸鉛シカゼイン石灰ミの混合液をかければよい。又捕殺に依るのもよい。夜盜蟲の大方は前述べたやうにこの七、八月には土中に蛹の状態であるから根際の際りを掘つて見たり、尙おかれて幼蟲の形であるものも畫間はやはり土中にもぐつてゐるから葉にはゐなくても土中から捕らねばならない。

青蟲は蝶々が何時も飛んでゐるやうに、相當長い期間たえず次々發生して葉を食害する。是は葉の表裏の區別なくゐるのですぐわかる。金龜蟲の成蟲は地上のさの部分にも、幼蟲は土中に居るもので共に夫々地上部の葉、花を、又土際の莖を食害するものである。

次にあまり込み合つてゐるものは、間引をして互にふれ合はない程度にした方がよい。そして時に下肥なごの窒素肥料を與へ適期に收穫しなければ夏は早く根に繻が入り、固くて食べられなくなる。

トマト

トマトも相當各菜園に作られてゐるやうである。

トマトは七月上中旬頃から收穫が始まる。自家用として、充分色付いたものを收穫した方が味がよい。

次に脇芽摘みを怠つてはならない。一、三日もなほざりにするに、脇芽はずん／＼伸びて主枝との區別がつかなくなる。脇芽は即ち葉の出てるそのすぐ内側にあるのがそれであつて、應々にして葉と芽とが混同され易いのである(複葉であるため)葉は残し芽丈を摘む。尙葉と葉との中間の所につく芽はたいてい、花芽であるから是は摘み取つてはならない。そして中央の一本(主枝)丈は伸ばして順次支柱に結びつけてゆくのである。心を二本立てたり、心を止めなごしないやうに注意してはしい。七、八月は收穫の全盛期である。あまり日照りが續けば畦の間に淺い溝を作つて水を流してやるさか、葉、草等を根の周りに敷いてやるのもよい。

葉の縮む縮葉病、實の中央が黒く、固くなつて終には腐つてゆく腐敗病、段々木の勢が衰へてそのまゝにしておけば枯れてゆく立枯病なご目についたら、思ひ切つて早く病株を抜き、株は焼き捨て、後の土には石灰、又は木灰を撒いて消毒しておく。病氣の蔓延は實に早いものである。

茄子

茄子はそろ／＼成り始めた所もあつて、枝を摘むとして

は少し遅れた感じもするが、第一の花がついて、そのすぐ下から出てゐる枝と、その下の枝と即ち中央の分共で三本丈伸ばしてそれ以下の枝にはあまり實が附かないから切り取る。残された三本には次ぎ／＼と花が咲き茄子には無駄花が無いと言ふ位によく結實する。何時でも永く黒々とした柔い茄子を收穫するには、窒素肥料即ち下肥の類を一月に一、二回位、又米のまぎ汁も時々株の周圍を淺く掘つてやり、之がしみ込んだ頃に元通り土を覆つておくやうにするさよい。

其の他

隣組から配給されたのであらう。ヒマハリも目につく、倒れない中に支柱を立て所々結びつけておくやうにする。菜豆の蔓性のものには支柱を立て、やり、若い芽先につき易い蚜アブラムシ、蟲は石鹼類で洗ひ落してやる事が大事である。放任しておくに花が咲いても實にならず落ちる事がある。又蔓性の菜豆は段々蔓の伸びるにつれて花も段々少つてゆくのであるから、時々追肥をしなければならぬ。豆に灰といふやうに豆類は加里肥料である灰分を好むものであるから時々草木灰を根の近くを少し掘つてやるやうにするさよいやうである。